

【かしよく】	華燭	華やかなともし火。
【こりょ】	胡虜	北方のえびす。転じて、異民族、また、外国人を卑しめていう語。北狄(ほくてき)。蛮人。
【ちしつ】	知悉	ことごとく知っていること。細かい点まで知っていること。精通。
【ていふつ】	鼎沸	鼎(かなえ)の湯がわきたつように議論がわきたつこと。世の中が乱れて多くの人がさわがしくわめきたてること。
【こうかく】	肴核	酒のさかなと果物。料理。馳走(ちそう)。
【めんこう】	綿亘	長く連なり続くこと。連互(れんこう)。
【ほすう】	歩趨	歩くことと小走りに走ること。歩くことと走ること。また、その足どり。転じて、物事の進み行く様子。
【おとく】	汚瀆	けがすこと。「神域を汚瀆する」
【じょうしょう】	丞相	中国前近代、天子を補佐して宰相の任にあたる高官名。
【ふようほう】	芙蓉峰	富士山の異称。芙蓉。
【ほよく】	輔翼	助けること。補佐。扶翼。
【ごうしよ】	劫初	世の始まり。天地開闢(かいびやく)。ごうしよ。
【かいご】	魁梧	《「魁」はおおきい、「梧」は壮大なさまの意》からだが大きくりっぱであること。魁偉。
【かのう】	嘉納	① 人の箴言(しんげん)、意見などを喜んで聞き入れること。② 進物などを喜んで受け納めること。
【ゆうじょ】	佑助	たすけること。補佐。
【とうけい】	刀圭	① 薬を盛る匙(さじ)。また、薬をはかる単位にも用いた。② 転じて、医術、また、医者 of 称。
【びょうぎ】	廟議	① 朝廷の評議。朝議。② 宗廟に関する議論。
【ちょうじよく】	寵辱	愛されることとはずかしめられること。
【じんぜん】	荏苒	なすことのないまま歳月が過ぎるさま。また、物事が延び延びになるさま
【あんじん】	按針	磁石によって船の航路を決めること。また、その人。水先案内。按針手。
【えんせき】	燕石	《燕山から出る、玉に似るが玉でない石の意》まがいもの。また、価値のないものを珍重し、誇ること。小才の者が慢心するたとえ。
【がんしよ】	雁書	手紙のこと。
【かき】	果毅	決断がよく、意志の強いこと。
【しゅんせい】	竣成	建築物、造築物ができあがること。竣工。
【しゅうちょう】	繡腸	《にしきの心の意》詩文の才に富んでいること。豊かな詩情。「錦心繡腸」
【にじゅ】	二豎	病魔。また、病気。
【せいきん】	青衿	青色の布で作った着物の襟。粗末な服装にいう。
【てっとう】	鉄桶	① 鉄製の桶(おけ)。② 防備や団結などが、きわめて堅固ですきまのないこと。
【べんぱく】	弁駁	《「べんぱく」とも》他人の説の誤りを突いて論じ、攻撃すること。反駁。

【けいらく】	京洛	みやこ。特に京都をさしていう。きょうらく。
【やじょう】	爺嬢	父母。
【けいしょ】	鶏黍	ニワトリの肉を羹(あつもの)とし、黍(きび)を炊いて飯とすること。多く、客をもてなすことにいう語。饗応。
【せいゆう】	聖猷	天皇のはかりごと。天子の計画。尊い計画。
【かんりんいん】	翰林院	旧中国の宮廷学芸機関で、「ふで(翰)のはやし(林)の官庁」の意。
【ちゅうさん】	昼餐	ひるめし。昼食。午餐。
【ずろう】	杜漏	(杜撰(ずさん)・脱漏の意) ぞんざいで、手ぬかりがあること。いいかげんで、しめくくりがないこと。また、そのさま。
【けんぱく】	硯北	手紙の脇付の一。机を南向きに据えると、人は硯の北側にいることになるところからいう。机下。
【へきらく】	碧落	青い空。大空。また、はるか遠い所。
【せいきん】	生禽	いけどりにすること。生獲。
【いんじゅ】	印綬	古代中国で、官印とそれを身につける組み紐。
【きばく】	亀卜	カメ(亀)の甲を焼いて、現れた割れ目をみて吉凶を占うのをいう。
【くそ】	苦楚	(「楚」は痛の意) 苦しみ痛むこと。辛苦。苦痛。
【かいしょう】	快捷	動作などのすばやいさま。敏捷(びんしょう)。
【しゃり】	這裏	(「這」は中国語の俗語で、「此」の意) ここ。このうち。この。こちら。者裏。
【りょうあん】	諒闇	天皇が、その父母の死にあたり喪に服する期間。また、天皇・太皇太后・皇太后の死にあたり喪に服する期間。ろうあん。
【ぶじ】	蕪辞	乱雑で整っていない言葉。自分の言葉や文章をへりくだっていう語。「蕪辞ながら祝辞といたします」
【はちょう】	巴調	《巴人のうたう歌の卑しい調子の意。巴州は今日の中国四川》俗歌。俗曲。また、自作の詩文を謙遜していう語。
【へいどん】	併呑	いっしょにのみ込むこと。また、一つにあわせ、従えること。
【こうそ】	縞素	白い衣服。白色の喪服。また、それを着ること。
【ゆうじょう】	揖讓	① 両手を前で組み合わせて礼をし、へりくだること。② 天子の位を譲ること。
【きょうひつ】	匡弼	(「匡」「弼」ともにただす、たすけるの意) 非をただし、及ばないところを助け救うこと。また、その人。匡輔(きょうほ)。
【きょうぎょ】	強禦	善をしりぞけるほどにわるくて強いこと。また、その者。武勇にすぐれていることにもいう。
【きょくひ】	曲庇	事実を偽ったり、道理や法律を曲げたりして人をかばうこと。
【きこう】	葵向	フユアオイの花が日の光を慕ってその方に向かうこと。転じて、君主や目上の人の徳を慕い仰ぐこと。
【けいあん】	桂庵	慶庵、慶安とも書く。奉公人、雇い人、芸者などの周旋業者のこと。
【うぐ】	迂愚	世間の事をよく知らないで愚かなこと。迂闊(うかつ)でぼんやりしていること。
【ろうれい】	狼戾	① 狼のように欲深く、道理にもとること。また、その行為。ろうるい。② 散り乱れること。秩序のないこと。狼藉。ろうるい。
【ひっせい】	畢生	命の終わるまでの間。一生涯。一生。終生。

【きんよう】
【ちゅうたい／じゅうたい】
【かしゃく】
【ひっそく】
【とうじん】
【はいし】
【おと】
【えんそう】
【こうよく】
【しんきゅう】
【じょうし】
【りょうじん】
【えいきょ】
【くとう】
【こうもん】
【おうめい】
【いちい】
【たんでき】
【ちょうこく】
【あとぶつ】
【きくじん】
【けいろく】
【こうふん】
【ていど】
【びく】
【きたい】
【いりょう】
【かいこう】
【いんきょ】

禁厭
紐帶
掛錫
逼塞
蕩尽
稗史
於菟
淵叢
膏沃
賑給
上巳
梁塵
盈虚
狗盜
叩門
鷗盟
一葦
耽溺
肇国
阿堵物
麴塵
鷄肋
黄吻
剃度
微軀
危殆
威稜
恢弘
允許

まじないで、病氣や災害を防ぐこと。きんえん。

① おびとひも。転じて、おびやひものように、両者を結びつけるたいせつなもの。つながり。② 血縁・地縁・利害など。

《錫杖を僧堂の壁に掛ける意》行脚の禅僧が、僧堂に滞在し修行すること。転じて、僧堂に籍をおいて修行すること。掛搭。→飛錫

① せまりふさがること。② 姿を隠してこもること。身をつつしむこと。謹慎すること。③ 内心推量すること。

① やぶれつきること。すたれきえること。② 財産などをつかい果たすこと。

① (「正史」に対して) 公認されない歴史。重要でない事柄を記した歴史。また、民間の歴史。

「とら(虎)」または「ねこ(猫)」の異名。

(「淵」は魚が、「藪」は鳥獣が、集まる所) 物事の寄り集まる所。

土地がよく肥えていて、作物を栽培するのに適していること。また、そのさま。膏沃。肥沃。「膏腴」に同じ。

貧民に施し与えて生活を助けること。

五節供の一つ。三月三日の称。

① 建物の梁(はり)の上にもっているちり。② (「梁塵を動かす」の故事から転じて) 歌謡・音楽。

① 満ちていることと、むなしいこと。充実と空虚。② 月の満ち欠け。盈虧(えいき)。

(犬のように物を盗む意から) こそどろ。小ぬすびと。草賊。

門戸をたたくこと。人を訪問すること。

《カモメと友達になる盟(ちかい)をする意から》俗世間を離れた風流な交わり。隠居して風月を楽しむこと。

① 一そうの小舟。② ひとりの人。

一つのことに夢中になって、他を顧みないこと。多く不健全な遊びにおぼれることにいう。

新しく、国家をたてること。建国。

阿堵物 銭(ぜに)の異名。

麴塵 黄色みのある緑色(青色)の色の名である。

たいして役に立たないが、捨てるには惜しいもののたとえ。

「黄口(こうこう)」に同じ。《ひなのくちばしが黄色いところから》年が若く経験が浅いこと。また、その人。

髪をそって僧・尼となること。剃髪。

いやしい身。また、自分をへりくだっていう語。

あやういこと。非常にあぶないこと。また、そのさま。

天子の威光。稜威。みいつ。

広く大きくすること。事業や制度、教えなどを世に広めること。恢廓。

許すこと。許可。免許。裁可。

【さす／さしゅ】
【りゅうが／りょうが】
【もうろう／まんらん】
【りゅうぐう】
【きょっこう】
【きゅうせん】
【きゅうぎ】
【きくもん】
【ぎんと】
【ふんたい】
【かいてい】
【へんじゅう】
【きょうしょう】
【こっしょ】
【かいぞう】
【いつび】
【ちんぷ】
【ふっきゅう】
【とうげん】
【せきがく】
【ほうてき】
【さいゆう】
【きが】
【さいり】
【いき】
【ちんしょ】
【きょうじゃく】
【ゆうぶつ】
【れんちゅう】

叉手
竜駕
孟浪
流寓
曲肱
弓箭
旧誼
鞠問
銀兔
粉黛
階梯
篇什
喬松
忽諸
晦蔵
溢美
鎮撫
復仇
套言
碩学
鋒鏑
采邑
起臥
犀利
依稀
砧杵
怯弱
尤物
簾中

両手を胸の前で重ね合わせること。また、手をこまぬくこと。腕をくむこと。転じて、手を束(つか)ねて何もしないこと。
天子の乗用する車。
①はっきりしたところがなくて、いいかげんなこと。とりとめがないこと。②さまようこと。放浪すること
他郷にさすらい住むこと。放浪して他国に住むこと。
ひじをまげること。また、貧しいために枕や布団を持たず、ひじをまげてかいなを枕とするところから、清貧の中にあっても閑適を楽しむことをいう。
①弓と矢。弓矢。②弓矢を取る身。武士。「一の面目とよろこび給へば」〈平治・上〉③弓矢で戦うこと。戦い。
古いなじみ。昔のよしみ。むかしなじみ。旧好。
罪を問いただすこと。鞠訊。
月の異称。
① おしろいとまゆずみ。転じて、化粧(けしょう)。② 美人。
① 昇降の階段。きざはし。はしご。〔何遜－七召〕② 物事を学ぶ段階。
詩を集めたもの。
丈(たけ)の高い松の木。
① たちまちに消滅すること。たちまち尽きること ② 上(かみ)の命令などをないがしろにすること。
① 自分の才能や学識を人に知られないように隠すこと ② 資源などがうずもれていること。
ほめ過ぎること。過賞。
乱をしずめ、民を安心させること。しずめなだめること。
国際法上の違法な行為によって権利を侵害された国家が、加害国に対してその中止・救済を求めるために行う自救行為。
ありきたりのことば。古くさいことば。また、きまり文句。
学問が広く、深いこと。博学。また、その人。大学者。
ほこさきとやじり。転じて、武器。兵器。
領地。知行所。食邑。
起きることと臥すこと。転じて、生活すること。おきふし。
① 武器などが堅くて鋭いこと。また、そのさま。鋭利。② 才知などが鋭いこと。また、そのさま。
① はっきりしない様子。かすかなさま。ほのかなさま。② よく似た様子。そっくりなさま。
きぬたとそれを打つつち。また、きぬたを打つことや、その音。
物事をこわがって気の弱いこと。また、そのさま。おくびょう。また、物事に積極性がないこと。きょじゃく。
① すぐれたもの。めだつ代表的なもの。② すぐれて美しい女性。美女。
① すだれの中。みすの中。また、部屋のおく。室内。簾内。② (常に簾の奥にあって生活するところから) 高貴な家の女性。貴婦人。

【うんか】
【へんぱ／へんぱ】
【ほてい／ほてつ】
【しょうりょう／ひょうりょう】
【ちょうこう】
【ようりゅう】
【うろ】
【とうまい】
【ほうちゃく】
【きょうりん】
【りょうい】
【だんりん】
【すいきょ】
【おうぜつ】
【せいばく】
【そはい】
【はきやく】
【こうがく】
【さが】
【ぞくりゅう】
【こてつ】
【きかん】
【しっぴ】
【いくいく】
【きんぼ】
【ほうが】
【うっこ】
【ごうとう】
【しんしゅく】

雲霞
偏頗
補綴
秤量
長庚
楊柳
烏鷺
禿昧
逢着
杏林
陵夷
檀林
吹噓
鶯舌
清穆
鼠輩
簸却
鴻学
嵯峨
粟粒
故轍
窺管
櫛比
郁郁
欽慕
萌芽
鬱乎
豪宕
辰宿

① 雲と霞。② 人が非常に速くかけて行くこと。とくに、逃げて行方をくらますことの速いさまをいう。③ 軍勢などの数の多いことをたとえていう語。
かたよって不公平なこと。えこひいきすること。また、そのさま。
おぎなってつづり合わせること。破れた所などを縫うこと。また、不足をおぎなって足すこと。ほてち。ほてつ。
はかりにかけて目方をはかること。また、その重さ。しょうりょう。
夕暮の西空に見える金星。宵の明星
① ヤナギをいう。② 縦の方向に筋のようなしぼを表わした織物。
① カラスとサギ。② 黒と白。③ 囲碁の異称。
愚かで道理に暗いこと。また、そのさま。無知。
出あうこと。出くわすこと。行きあたること。「難問に一する」
医者 of 別称。
① 丘と平地。② (一する) 丘陵が次第に低く平らになること。陵遅。
仏教寺院における僧侶の養成機関、仏教宗派の学問所。
① 大きな事を言う。ほらを吹く。② 吹聴する, 宣伝する。
うぐいす の声。 また、美しい声のこと。
清らかで平安なこと。手紙で相手の無事、健康を祝っているのにも用いる。
とるに足りない者。つまらない者。輕蔑すべきやつ。人を卑しめていう語。
箕(み)でふるうようにして、一部をはらいすてること。
学問に深く通じていること。また、その人。
京都市右京区の地名
① 粟(あわ)の穀粒。 あわつぶ。 ② あわつぶのように小さいもの。 ③ 寒さや恐怖で、膚に生じる、①のようなもの。
昔ながらのしかた。 前例。
管(くだ)をのぞくこと。細い管を通して天を見ることから、見識の狭いことのたとえ。
すきまなく並んでいる、くしの歯。また、くしの歯のように、すきまなく並ぶこと。
① 文化または文章などが格調高く盛んであるさま。② 香気の盛んなさま。かんばしいさま。馥郁(ふくいく)。
うやまいしたうこと。敬慕。仰慕(ぎょうぼ)。
① 草木が芽を出すこと。また、その芽。芽生え。② 物事の起ころうとするしるしが現われること。また、ある事が生ずるもとなるもの。きざし。
① 草木の茂るさま。 ② 物事の盛んなさま。
気持が大きく物事にこだわらないこと。意気が盛んで思う通りに行動すること。また、そのさま。豪放。
恒星の天球上での区分。星座。

【ちょうじょう】	牒状	① =ちょう（牒）② 寺院間で交わされる文書 ③ 国の元首が、その国の名をもって他国に遣わす国書。
【そうたい】	掃苔	こけをきれいに取り去ること。転じて、墓まいり。
【しい／しゆい】	思惟	仏語。考えめぐらすこと。思いはからうこと。しい。
【ずいけん／ずいげん】	瑞駢	めでたいしるし。瑞兆。瑞相。
【くんもう／きんもう】	訓蒙	無知の者を教えさとすこと。婦女子や初学者などを教えさとすこと。また、その目的の書物。
【しよこう】	曙光	① 夜明けの光。夜明けにさしてくる太陽の光。暁光。② (比喩的に) 前途に見えはじめたかすかな希望。明るいきざし。
【せつせつ】	屑屑	① こせこせするさま。小事にこだわるさま。② せわしく立ち働くさま。③ 雨などのこまかく降るさま。
【こうちょう】	後凋	苦難に耐えて最後まで固く節操を守ること。
【とくひつ】	秃筆	穂先の擦り切れた筆。ちびた筆。また、自分の文章や筆力を謙遜するという語。
【ぜっせん】	舌尖	① 舌のさき。舌頭。舌端。〔重訂解体新書（1798）〕② くちさき。くちまえ。弁舌。舌頭。舌端。
【れつご】	列伍	列を組んで並ぶこと。また、そのならば。隊伍。
【けんきん】	献芹	① 君主に物品を奉ること。物を贈ること。② 君主に忠義を尽くすこと。また、忠義を尽くすことをへりくだってという語。微忠。
【けんよ】	権輿	① 物事のはじまり。事の起こり。はじめ。発端。濫觴(らんしょう)。② (否定表現を伴って用いられる語) 気がかり。心配。
【ちょうたつ】	暢達	のびそだつこと。また、のびのびしているさま。のびやか。
【ぼうし】	茅茨	茅と茨で葺(ふ)いた屋根。また、そのような質素な家。
【しょうはく】	松柏	松と柏。また、四季に緑を保つ常磐木(ときわぎ)の総称。転じて、節を守って変わらないこと、また、変わらずに永く栄えることのたとえ。
【かんぜん】	莞然	にっこりと笑う様子。微笑をたたえたさま。莞爾(かんじ)。
【じゅたい】	濡滞	とどこおること。おくれること。ためらっておくれること。遲滞。遲留。
【こうか】	閣下	相手を敬って呼びかける語。閣下。
【きゅうだん】	急瀨	流れの速い瀨。早瀨。
【すうぎ】	雛妓	まだ一人前になっていない芸妓。半玉(はんぎょく)。
【とじ】	徒爾	無益であること。無意味なこと。むなしいさま。いたずらなさま。
【かくりん】	獲麟	文章を書き終えること。転じて、ものごとの終わり。また、死ぬことや、死ぬ直前に残す辞世の歌や句のこと。
【うんい】	云為	言ったり、したりすること。言葉と行為。言行。うんぬん。
【ずだ】	頭陀	煩惱(ぼんのう)を除去すること。
【えんけん】	鳶肩	角張って、鳶とびの姿のような肩。あがりがた。いかりがた。
【はんじょう】	煩擾	わずらわしいほどに乱れること。ごたごたと乱れること。
【れんれん】	漣漣	涙などがとめどなく流れ落ちるさま。
【かんちょう】	間諜	秘密の手段を用いて敵あるいは競争相手の様子をさぐり、味方に通報すること。また、その人。まわしもの。間者。スパイ。

【とうりゅう】	逗留	一か所にとどまって進まないこと。停滞すること。
【そうよう】	蒼蠅	① あおばえ。② 讒言(ざんげん)をする者のたとえ。
【かんじょう】	灌頂	菩薩の位にあって、仏が成仏を約束する意味で行なう、仏位受職の儀式。
【かくしゃく】	赫灼	光り輝くこと。また、輝いて明るいさま。赫奕(かくやく)。
【りんかい】	鱗介	魚類と貝類。転じて、海産動物の総称。魚介。
【さくぼう】	朔望	陰暦の一日と一五日。また、月の満ち欠け。
【かか】	禾稼	穀物。
【ふきゅう】	負笈	(笈を負って遠くへ行く意) 遠くへ勉強に出かけること。遊学。
【きよせつ】	鋸屑	① のこくず。おがくず。のこぎりくそ。② 何の役にもたたない、くずのような人間の意。人をののしってという語。
【かいこう】	蟹行	蟹(かに)が這(は)って行くこと。また、蟹のように横に歩くこと。よこばい。
【えいりょ】	叡慮	天子のお考えやお気持、また、御感動。聖慮。宸慮(しんりょ)。叡感。
【やこぜん】	野狐禅	禅をおさめる人が、まださとてもいないのに、さとしたつもりになってうぬばれること。転じて一般に、生かじりでうぬばれること。
【きよっこう】	旭光	① 朝日の光。旭暉(きよつき)。② 紋所の名。朝日の光をかたどったもの。
【へいげき】	兵戟	槍、刀やほこ。いくさの道具。兵戈(へいか)。また、たたかい。いくさ。
【ひき】	誹毀	悪口を言うこと。他人の悪事や醜行をあばいて、その名誉を傷つけること。
【こういん】	後胤	数代の後の子。子孫。後裔(こうえい)。来裔(らいえい)。すえ。
【とうびょう】	投錨	船のいかりをおろすこと。船が停泊すること。
【ほうせん】	烹鮮	民を治めること。国政を処理すること。特に、国司についていう。
【さいひ】	柴扉	しばで作ったとびら。しばのと。柴門。また、転じて、わびしいすみか。わびずまい。
【こうてい】	孝悌	(「悌」は兄に従順であること) 父母に真心をもって仕え、兄によくしたがうこと。
【ゆうじょ】	宥恕	寛大な心で罪を許すこと。
【かんろく】	千禄	① 俸禄を求めること。仕官を望むこと。② 幸いを求めること
【ちょうちょう】	喋喋	口数の多いこと。しきりにしゃべること。
【せんご】	舛誤	誤ること。また、誤り。
【はいち】	背馳	(背を向けて走り去るという意から) 行き違うこと。反対になること。そむき離れること。
【だいそ】	乃祖	汝の祖父。また、一般に、祖先。だいそ。
【りょうら】	綾羅	あやぎぬとうすぎぬ。また、美しい衣服。羅綾。
【きかん】	祁寒	きびしい寒さ。大寒。厳寒。
【らんこう】	蘭交	友人間の、心の通い合った交わり。その美しさを蘭の香りにたとえていう。金蘭の契り。蘭契。

【こうこん】	黄昏	夕方薄暗い時。夕暮れ。暮れ方。たそがれどき
【しちょう】	弛張	① ゆるむこととはること。② ゆるやかなことときびしいこと。寛大と厳格。緩急。
【ふんぞうえ】	糞掃衣	糞塵(ふんじん)中に捨てられた布を拾い集めてつくった袈裟(けさ)。
【ていせい】	鄭声	野卑でみだらな俗曲。淫声。
【ばんかん】	盤桓	うろうろと徘徊すること。また、進まないでためらうこと。ぐずぐずすること。また、そのさま。
【こんとく】	坤徳	皇后の徳。⇔乾徳(けんとく)。
【さくびゅう】	錯謬	まちがえること。あやまり。
【そうけい】	聰慧	才知にすぐれること。また、そのさま。聡明。
【がじゅん】	雅馴	① ことばづかいや筆づかいが正しく練れているさま。② 態度が上品で教養のあるさま。
【とんとう】	遁逃	逃げのがれること。
【てんとう】	纏頭	歌舞・演芸をした者に、褒美として衣類、金銭などの品物を与えること。はな。ぼち。チップ。
【ほうせい】	鳳声	① 鳳凰(ほうおう)の鳴き声。転じて、天子など高貴な人の声。② 他人を敬って、その伝言や音信をいう語
【わくもん】	或問	文章で、仮にある質問を設け、それに答える形式で自分の意見を述べる体裁のもの。また、その質問の言いだしに置く語。
【るいざ】	累坐	犯罪などのかかりあいになること。まきぞえ。ひきあい。連坐。
【すいか】	翠華	(昔、中国で天子の旗は翡翠(かわせみ)の羽で飾ったところから)天子の旗。天皇の旗。
【じりつ】	而立	三〇歳のこと。
【せんじゅつ】	撰述	書物やトを著わすこと。著述すること。また、文章を述作すること。
【けいさい】	荊妻	自分の妻をへりくだっていう語。
【かくせい】	廓清	悪いものをすっかり取り除くこと。
【こり】	垢離	神仏に祈願する時、冷水を浴びてからだのけがれを除き、身心を清浄にすること。
【しゅっき】	夙起	朝早く起きること。あさおき。早起き。
【せいじゅん】	正閏	① 平年と閏年(うるうどし)。② 正と閏。正位・正統とそうでないもの。また、それをあきらかにすること。
【ほうこ】	蓬戸	(草をあんで作った戸の意)粗末で貧しげな住居。庶民の家。貧屋。
【しょうび】	鍾美	(「鍾」はあつめる意)美をあつめること。また、すぐれた点を一身に集めること。一人がすぐれて美しいこと。
【かんしゅ】	竿首	さらし首。梟首(きょうしゅ)。
【かじゅう】	佳什	すぐれた詩歌。りっぱな作品。佳作。
【ていしよ】	汀渚	みずぎわ。なぎさ。
【りょうか】	菱花	① 菱(ひし)の花。② 「りょうかきょう(菱花鏡)」の略。
【かんせん】	貫穿	① 通すこと。掘りつらぬくこと。② 広く物事に通じること。よく研究し尽くすこと。ゆきわたること。

【ほしょう】	歩哨	軍隊で、警戒や見張りの任にあたること。また、その兵士。哨兵。
【いっきく】	一掬	(「掬」は水などを手のひらですくう意) ひとすくい。ひとにぎり。また、ひとすくいの量で、わずかなこと。
【しゅうちょう】	酋長	集団の中心となる者。指導者。統治者。
【しゅうそう】	周匝	まわりをまわること。まわりをとりまくこと。また、そのまわり。めぐり。すみずみまでゆきわたること。
【ばんか】	挽歌	死者を葬る時に棺を挽(ひ)く者が謡う歌、葬送の歌、死を悲しむ歌。
【しし】	孜孜	学問、仕事などにいっしょうけんめい励み努力してやすまないさま。なまけないで熱心につとめるさま。孳孳(じじ)。
【がんこ】	含糊	はきはきしないこと。事を曖昧にしておくこと。模糊。糊塗。
【はっこう】	八紘	国の八方の遠い果て。地上のありとあらゆる方面。国のすみずみ。天下。全世界。
【たいえい】	退嬰	しりごみすること。ひきこもること。積極的に新しいものを取り入れていこうとする意気ごみのないこと。
【ちょざい】	樗材	役に立たない材木。転じて、役に立たない才能・人材。また、自分をへりくだっている語。樗才。
【ちんてい】	椿庭	父のこと。椿堂。
【ねぎ】	禰宜	神社で、宮司・権宮司を補佐する職。また、一般に神職の総称。
【じゅうき】	戎器	戦いに用いる器具、機械。刀剣、銃砲、爆発物の類。武器。兵器。
【ほうてい】	鵬程	鵬(おおとり)の飛んで行く道のりの意から) はるかに遠い道のり。
【さりゅう】	蓑笠	みのとかさ。雨雪をしのぐために、蓑をまとい、笠をかぶること。さりゅう。
【れいじん】	伶人	音楽を奏する人。特に、雅楽を奏する官吏。楽人。伶官。
【ちはつ】	薙髪	(「薙」は剃る意) 髻(もとどり)を切ること。また、頭髪をそること。法体になること。剃髪(ていはつ)。
【けんどう】	萱堂	(婦人の仕事部屋の前庭に萱草を植えたところから) 母または、他人の母の尊称。北堂。
【しぶん】	斯文	この学。この道義。特に、儒教の道や学問についていう。また、儒学者。文人。
【ぼうゆうせん】	卯酉線	天文学で、天頂を通り、天の子午線と天球上で直交する大円をいう。
【しんざん】	晋山	新しく住職になる者が初めてその寺に入ること。
【かんじょう】	函丈	師に対して、一丈ほども席の間をおいてすわること。また、その間隔。
【りゅうらん】	劉覧	① 通覧すること。目を通すこと。あまねく見ること。② 他人を敬って、その人が閲覧することをいう語。
【せんだつ】	蟬脱	俗事から超然として抜け出ること。古い因襲束縛から抜け出すこと。現状から理想を求めて抜け出すこと
【れんぽ】	蓮歩	美人のあでやかな歩み。
【しょちゅう】	書厨	① 本を入れておく箱。本箱。書棚(しょだな)。② 読書をするだけで、その本の意味をよく解することのできない人をあざけっている語。
【ふせい】	斧正	(おので正す意) 他人の書いたものに遠慮なく筆を加えたり、削ったりすること。
【しゅうぱつ】	舟筏	舟といかだ。舟、またはいかだ。転じて、舟。
【しょうそ】	樵蘇	木を切ることと草を刈ること。きこることと柴刈りすること。また、その人。

【べんさく】	鞭策	むちで打つこと。また、はげますこと。
【しょうふく】	妾腹	めかけの腹から生まれたこと。また、その子。めかけばら。
【ようけつ】	要訣	物事のもっとも中心となる事柄。肝要な奥の手。奥義。秘訣。
【しょげん】	諸彦	ほぼ対等の多数の男性に対して敬意をもっていう語。諸賢。みなさん。
【まれい】	磨礪	とぎみがくこと。また、学問や技芸を鍛練すること。
【ていしゅつ】	挺出	ぬきん出ること。他にすぐれて秀でること。傑出。
【たんし】	簞食	飯を盛る器と水を入れる器。
【しょうし】	嘗試	食物の味などの良否を、なめてたしかめてみること。また、物事をためしてみること。経験すること。
【らくばく】	落莫	もの寂しいさま。寂寞 せきばく。
【とうとく】	董督	監督してただすこと。取り締まること。
【きつきつ】	吃吃	① 声を出して笑うさま。② 言葉がなめらかに出ないさま。また、のどの奥の方でくり返し声を発するさま。
【ひぞく】	匪賊	徒党を組んで略奪・殺人などを行う盗賊
【ちょし】	儲嗣	天子または貴人の世継。儲式(ちょじ)。
【こうとう】	浩蕩	① 広く大きなさま。ゆったりとして豊かなさま。② 水のひろびろとしたさま。水が豊かに流れるさま。浩滔。
【ぼくたく】	木鐸	世の中の人々を目覚めさせ、正しい道へと導く者のたとえ。
【しがん】	此岸	迷いの世界。悩みの多い現実世界。この世。⇨ 彼岸 ひがん。
【ゆうあく】	優渥	ねんごろで手厚いこと。めぐみ深いこと。また、そのさま。
【きく】	規矩	コンパスとさしがね。転じて、寸法や形。動作などが規則正しく行なわれること。規則、手本など。
【かんぷう】	観楓	もみじを觀賞すること。もみじがり。
【けいかん】	溪澗	たにがわ。たに。溪谷。
【りんそう】	林藪	① 林とやぶ。低木のしげみと林。藪林(そうりん)。② 草深い田舎。③ 物事が多く集合している所をたとえていう語。淵藪(えんそう)。
【そうらい】	草萊	① 荒れはてたくさむら。生い茂った雑草。② 荒れ地。未開の地。転じて、草ぶかい田舎。
【けいこう】	馨香	かんばしいかおり。よいにおい。芳香。けいきょう。
【せいち】	棲遲	ゆっくりと心静かに住むこと。世俗を離れて田園に住むこと。また、そのような人の家。
【きゅうこう】	九阜	幾重にも曲がって続く奥深い沢。深遠な所のたとえ。
【たいろう】	大牢	中国で、天子が社稷を祭るときの、牛・羊・豚などの供え物。りっぱな料理。ごちそう。
【るじ】	屢次	たび重なること。
【もうえい】	毛穎	筆(ふで)の異称。
【そうし】	桑梓	桑(くわ)の木と梓(あずさ)の木。

【しゅうぼく】	輯睦	心がやわらいで、人とむつまじくすること。
【そうはく】	糟粕	酒のかす。酒のおり。精神の抜けたもの、役にたたないもののたとえ。
【しのう】	詩囊	漢詩の草稿をたくわえておく袋。
【けんれん】	牽連	つながりつづくこと。また、ある関係によってつながること。
【ぼや】	戊夜	五夜の一。およそ今の午前3時または4時から2時間をいう。寅の刻。五更。
【りょううん】	凌雲	雲をしのぐほどに高いこと。俗世を超越していることにいう。
【ちゅうそ】	注疏	經書を解釈した注と、それをさらに解釈した疏。また、經書などの本文の字句に詳しく説明を加えたもの。
【ぎょか】	魚蝦	魚とエビ。また、魚類一般。
【きょうきょ】	僑居	仮に住むこと。また、そのすまい。仮すまい。寓居　ぐうきょ。
【きゅうごう】	鳩合	集め合わせること。また、集まり合うこと。糾合。求合。